

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和四年十二月度 入賞句一覽 投句数 千四百八十六句

奥の細道
むすびの地



特選

星野 勝 選

かくれんぼ白い息出て見つかった

大垣市

渡辺 美空 (小四)

だれもが一度は経験するかくれんぼ。ようやく隠れ場所を見つけてドキドキしながら隠れていたことを、大人になっても覚えていきます。鬼を待つ緊張感、最後まで隠れ切った達成感、きつと心に残っていることでしょう。作者は、きつと見つからない自信をもつて隠れていたに違いありません。ところが思わぬところに落とし穴が……。物陰から白い息が煙のように見えて、あつさり鬼に見つかってしまつた瞬間を句にしました。作者のしまつたという声が聞こえてきそうな句ですね。

おちばたち車のあとをおどりだす

大垣市

河合 里桜 (小二)

「おちば」は冬の季語です。登下校の途中、運動場、公園……。冬になると、たくさんのおちばが舞う様子を見かけますね。作者は、その様子を鋭く観察しています。そして、自分なりの言葉で表現しました。落ち葉がたくさん積もっている道路を勢いよく車が走り去つた後、その落ち葉を巻きあげていく様子は、きつと誰もが見かけたことでしょう。その様子を「おどりだす」と表現したところがすてきです。「おちば」を季語とした俳句がたくさんあつた中で、特に心魅かれる句でした。

寒つばきふと思いだすおばあちゃん

大垣市

伊藤 蓮人 (小四)

季語は「寒つばき」。作者は、寒つばきを見ると、ふとおばあちゃんのことを思いだすというのです。花が好きで、大切に手入れをしておばあちゃんに、きつと優しく、作者のことを可愛がっていたのでしよう。作者もおばあちゃんのことを大好きで、二人の間にたくさんのお思い出があるのだらうなと想像できます。寒つばきを見るとおばあちゃんとの思い出がたたくさんよみがえってくるのでしようね。優しさにあふれた句になりました。

秀逸

弟と押しくら饅頭ぽつかぽか

加茂郡川辺町

宮脇 紗希 (中二)

冬菊にぺこんと頭を下げた夜

加茂郡川辺町

川崎 愛心 (中三)

悩みなどちつぽけになる冬の星

加茂郡川辺町

新藤 大知 (中三)

とう辛子口から炎飛びでたよ

大垣市

池田 雅希 (小四)

さんまやくこげないように見はつとく

大垣市

森 愛咲 (小四)

冬のちようさむくかないのか声かける

大垣市

野村 美羽 (小六)

父さんと野球にむかう冬の朝

大垣市

小川 旭陽 (小二)

行ってきますゴジラみたいな白いいき

大垣市

さわ田 けんご (小二)

里芋がどぼんと入るみそ汁に

大垣市

太田 陽希 (小五)

おにごっこつかれてみたらいきしろい

大垣市

秦 壮汰朗 (小五)

入選

霜下りて草花を踏むしやおしやおと	加茂郡川辺町	西垣 陽翔(中二)
大好きな友達想い糸糸編む	加茂郡川辺町	渡辺 かずは(中二)
七五三写真の兄の前歯なし	加茂郡川辺町	柘植 陽月(中三)
すきまからみかんの香りダンボール	加茂郡川辺町	園川 歌音(中三)
じんわりと体が溶ける冬の風呂	加茂郡川辺町	則武 怜那(中三)
カサカサと枯れ葉の上をウォーキング	加茂郡川辺町	田島 乃愛(中三)
自転車のカゴに落ち葉が入ってた	大垣市	伊藤 芭菜(小六)
枯れ落ち葉小舟のように流れゆく	大垣市	前川 政季(小六)
木の枝に少しばかりのかれはのみ	大垣市	高橋 有為子(小六)
こたつをねだしたらみんなねこになる	大垣市	浅野 友花(小二)
九九カードこたつの中でれんしゅうだ	大垣市	しば田 しゅんすけ(小二)
いねかりのふきとぶわらをおいかける	大垣市	田口 奏羽(小二)
うごくかな今日もかくにんゆきだるま	大垣市	坂下 しいな(小二)
見上げるともみじのパズル赤黄色	大垣市	しみず ゆあ(小二)
あったかい母のおさがりちゃんちゃんこ	大垣市	鈴木 桃果(小四)
白い息目の前雲が現れた	大垣市	安藤 煌健(小五)
はくちようがいつぱいとんでくもみたい	大垣市	田中 りょうせい(小二)
しもばしらおんがくみたいパリパリパ	大垣市	子安 明か(小三)
もちだんごびよんとのびるぬるぬるだ	大垣市	しみず しょうた(小三)
しろうさぎゆきにつづくよあしあとが	大垣市	こうろぎ ねね(小三)

小中学生の部

選者吟

幼子の指あと残るゆきうさぎ

まさる

